

政策整理番号 26

評価シート(B)

対象年度	H17	作成部課室	環境生活部生活・文化課	関係部課室	
------	-----	-------	-------------	-------	--

政策番号	3 - 8 - 1	政策名	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興
------	-----------	-----	---------------------

施策番号	4	施策名	食文化等の生活文化の保存・継承・活用
------	---	-----	--------------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

【政策評価指標達成状況から】 課題有
 ・指標名:食文化の醸成に取り組む市町村の割合 達成度 B(指標仮目標を未達成であるが、増加基調にある。)
 (達成状況の背景)
 ・平成17年度は計画通りモデル市町村の取組成果を取りまとめ情報発信した。
 (達成度から見た有効性)
 ・取組市町村数が増加せず、仮目標を下回っており課題有り。
 【県民満足度(政策)の推移から】 課題有
 ・重視度(中央値)は70点と高いものの、満足度(中央値)は、50点で、同60点以上の回答者の割合が44.1%となっており課題がある。
 【社会経済情勢を示すデータの推移から】 該当なし

【総括】
 ・指標仮目標を下回り、満足度は55で低いので、「課題有」と判断した。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	重	みやぎ食育の里づくり事業	6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切 概ね適切 課題有

【国,市町村,民間団体との役割分担】 概ね適切
 ・(国)広く国民に対する食文化伝承に関する啓発
 ・(県)県内市町村への取組への支援
 ・(市町村)住民の取組への支援
 ・(民間団体)主体的な取組
 【施策目的を踏まえた事業か】 概ね適切
 ・施策目的として、地道であるが、着実に踏まえた事業である。
 【事業間で重複や矛盾がないか】 概ね適切
 ・産業経済部での地産地消事業との連携を図り、重複等のないよう調整することで、避けられた。
 【社会経済情勢に適応した事業か】 該当なし
 【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性) 課題有
 ・重視度は70点,満足度55点で,かい離度はやや大きい。

【総括】
 ・国等との役割分担も概ね適切に区分けされ,事業間でも重複・矛盾がなく,施策目的に沿ったものとして概ね適切と判断した。

施策番号	4	施策名	食文化等の生活文化の保存・継承・活用
------	---	-----	--------------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

【施策満足度から】課題有
 ・満足度(中央値)は、5.5点と中位だが、同60点以上の回答が43.6%と低位なため、満足度を高める点で課題有り。
 【政策評価指標達成状況から】課題有 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋
 ・仮目標値に達しなかった。他市町村への広報がさらに必要であると思われ、今後これまでの成果を情報発信することにより波及効果を図っていく。
 【社会経済情勢を示すデータの推移から】該当なし
 【業績指標推移から】課題有
 ・取組市町村数が増加せず、仮目標を下回っており課題有り。
 【成果指標推移から】課題有
 ・取組市町村数が増加せず、仮目標を下回っており課題有り。

【総括】
 ・満足度も高くなく、指標についても増加傾向にはあるが、仮目標からはかなり下回っていることから、課題有りと判断した。

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】課題有
 ・増加傾向が止まっており、課題がある。
 【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】該当なし
 【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】課題有
 ・増加傾向が止まっており、課題がある。

【総括】
 ・増加傾向が止まっており、「課題有り」と判断した。今後事業成果を県内に配布して波及効果を狙う。

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

・B-1事業の重複や矛盾は無く、各主体の役割分担も出来ている。
 ・B-2満足度も高くなく、指標についても仮目標からはかなり下回っていることから、課題有りと判断した。
 ・B-3成果指標の増加傾向が留まっている。
 以上B-1～3を総合的に判断し、「概ね適切」と判断した。

政策整理番号 26

事業分析カード(業績)

対象年度	H17	作成部課室	環境生活部生活・文化課	関係部課室	
------	-----	-------	-------------	-------	--

政策番号	3 - 8 - 1	政策名	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興		
------	-----------	-----	---------------------	--	--

施策番号	4	施策名	食文化等の生活文化の保存・継承・活用		
------	---	-----	--------------------	--	--

活動(事業) / 活動(事業)によりもたらされた結果								
事業番号	事業名 【担当課室名】	H17 事業費 (千円)	事業の対象 (誰・何を対象として、具体的に)	事業の手段(内容) (何をしたのか、具体的に)	業績指標名 (事業の活動量、「事業の手段」に対応)	H15	H16	H17
						事業費(千円)		
						効率性指標 (3.5E-02は 3.5×10^{-2})		
1	みやぎ食育の里づくり事業 【生活・文化課】	774	県民	・平成14～16年度の取組成果を冊子に取りまとめ、県内他地区の取組拡大のための参考に資する。	食文化の醸成に取り組む市町村の割合	4.2 2,240 1.9E-03	5.6 2,000 2.8E-03	5.6 774 7.2E-03
2	[]							
3	[]							
4	[]							
5	[]							
6	[]							
7	[]							
8	[]							
9	[]							
10	[]							
	[]							
	[]							
	事業費合計	774						

対象年度	H17	作成部課室	環境生活部生活・文化課	関係部課室	
------	-----	-------	-------------	-------	--

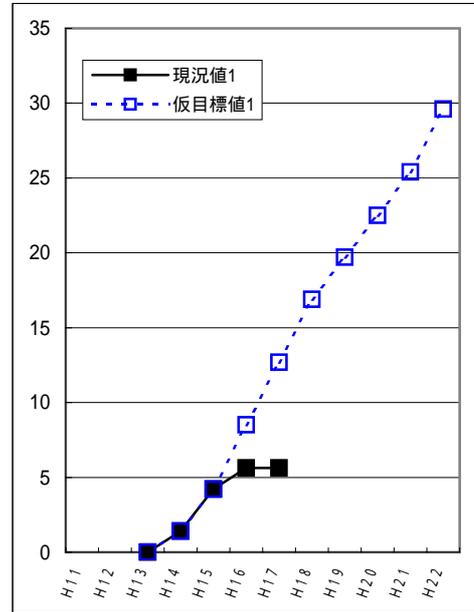
政策番号	3 - 8 - 1	政策名	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興
------	-----------	-----	---------------------

施策番号	4	施策名	食文化等の生活文化の保存・継承・活用
------	---	-----	--------------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
食文化の醸成に取り組む市町村の割合		%						
目標値	難易度	H17	12.7	H22	29.6			
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H13			H13	H14	H15	H16	H17
現況値 (達成度判定値)	0			0.0	1.4	4.2	5.6	5.6
仮目標値					1.4	4.2	8.5	12.7
達成度					A	A	B	B

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

核家族化の進展やライフスタイルの変化等にともない、食文化に代表される地域固有の文化や、生活の基盤となる食の大切さを、家族単位で次の世代に伝えていくことが難しくなっていることから、地域ぐるみで食文化を見つめ直し、地域の誇りとして受け継いでいくとともに、新たな生活文化を提唱するなど、文化を基礎とした地域づくりの指標として設定した。

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考: 第2~4回の推移					
施策重視度(中央値、点)A	70	H16	H15	H14			
施策満足度(中央値、点)B	55	70	70	68			
かい離 A-B	15	60	55	50			
満足度60点以上の回答者割合(%)	43.6	10	15	18			
		満足度60点以上の回答者割合	50.4	45.3	43.8		

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度: B
 ・仮目標値に達しなかった。他市町村への広報がさらに必要であると思われ、今後これまでの成果を情報発信することにより波及効果を図っていく。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続 要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か] 存続
 ・今回、市町村合併の進行によって母数が変化することを防止するため、母数は当初策定時(71市町村)を基準として計算することにした。
 ・昨今の社会経済情勢により食育に取り組む気運が社会全体に醸成されており、今後、その成果が県事業の波及効果によるものか、当該地域で自然発生的に起こったものであるのかを判別することは現実的には困難であるが、ひとつの一因として有効性を評価することは可能と考える。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 26

対象年度	H17	作成部課室	環境生活部生活・文化課	関係部課室	
政策番号	3 - 8 - 1	政策名	地域の誇りとなる文化・芸術の保存や振興		
施策番号	4	施策名	食文化等の生活文化の保存・継承・活用		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

[政策評価] 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性
 ・社会経済情勢等から当該取組の必要性に対する認識が高まってきており, 国や市町村, 地域有志等により類似の取組がそれぞれに行われるようになってきている。
 ・しかし, 事業内容が類似していても, 施策目的が伝統的生活文化の保存であったり, 地場農産物の消費拡大であったり, 自律的・健康的な食生活運営能力の向上であったりと色々で, しかも取組に当たっては多様な手法があることから, 相互の関連性の確保や役割分担の明確化はなされていない状況にある。

[施策評価] 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性
 ・「事業」としての有意性, 有効性は明白ではあるものの, 類似の取組が各組織・部局等においてばらばらになされていることから, 現場においては少なからず混乱が生じている。
 ・県全体の視野に立った, 施策レベルでの分類及び総合化が必要なものと思われる。

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

方向性	拡充	維持	縮小
-----	----	----	----

[方向性の理由]
 ・食文化をメインとした予算事業の取組は終了して, 18年度以降はこれまでのモデル市町村での取組成果を産業経済部や教育分野での食育の総合的な取組の中に取り入れていってもらおう。

[次年度の方向性]
 ・これまでのモデル市町村での取組成果を踏まえたアドバイス等をしていき, その波及効果を図る。

主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名	H17決算見込額(千円)	方向性	方向性に関する説明
1	主	みやぎ食育の里づくり事業	774	縮小	これまでのモデル市町村での取組成果を踏まえたアドバイスをしていく。
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
		合計	774		